

ORICON

2015年3月期 第2四半期決算 補足資料

2014年11月7日

オリコン株式会社（証券コード：4800）

2015年3月期 第2四半期決算の概要

- 音楽市場全体の縮小の影響を受け、スマートフォン含むモバイル事業の売上が縮小（前年同期比▲24.5%）雑誌事業（前年同期比▲15.6%）等も苦戦。顧客満足度ランキング連動型広告の販売は、引き続き堅調に推移（前年同期比+7.3%）。スマートフォン向け広告販売が前年同期比2.6倍に拡大。
- 売上減少に伴う変動費、およびコスト管理の徹底により、売上原価は抑制されました。
- 下記新規事業への先行投資により販管費が増加。
 - ・再生可能エネルギー分野における取り組み
 - ・ビッグデータを活用した金融プロジェクト

売上高	： 2,174 百万円	前年同期比	15.4% 減
営業利益	： 178 百万円	前年同期比	41.5% 減
経常利益	： 139 百万円	前年同期比	51.8% 減
純利益	： 51 百万円	前年同期比	66.7% 減

連結損益計算書



(単位：百万円)	2014年3月期 第2四半期(累計)	2015年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比	
			(額)	(率)
売上高	2,570	2,174	▲396	▲15.4%
売上原価 (原価率)	1,432 (55.7%)	1,118 (51.5%)	▲313	▲21.9%
差引売上総利益 (売上総利益率)	1,137 (44.3%)	1,055 (48.5%)	▲82	▲7.2%
販管費 (販管費率)	831 (32.4%)	876 (40.3%)	+44	+5.4%
営業利益 (営業利益率)	306 (11.9%)	178 (8.2%)	▲127	▲41.5%
経常利益 (経常利益率)	288 (11.2%)	139 (6.4%)	▲149	▲51.8%
税引前純利益 (税引前利益率)	292 (11.4%)	139 (6.4%)	▲153	▲52.4%
四半期純利益 (純利益率)	153 (6.0%)	51 (2.3%)	▲102	▲66.7%

【売上高】

●主な減収要因

- ・モバイル事業 ▲267百万円 (▲24.5%)
- ・雑誌事業 ▲80百万円 (▲15.6%)
- ・ゲーム事業 ▲55百万円 (▲49.7%)

●主な増収要因

- ・顧客満足度ランキング連動型広告
+18百万円 (+7.3%)
- ・太陽光発電事業 +13百万円 (+105.4%)

【売上原価】

売上減少に伴う変動費 ▲285百万円

●売上原価の抑制により、売上総利益率が前年同期比で4.2ポイント改善。

【販管費】

- ・エネルギー関連 +24百万円
- ・ビッグデータ関連 +24百万円

セグメント別売上高

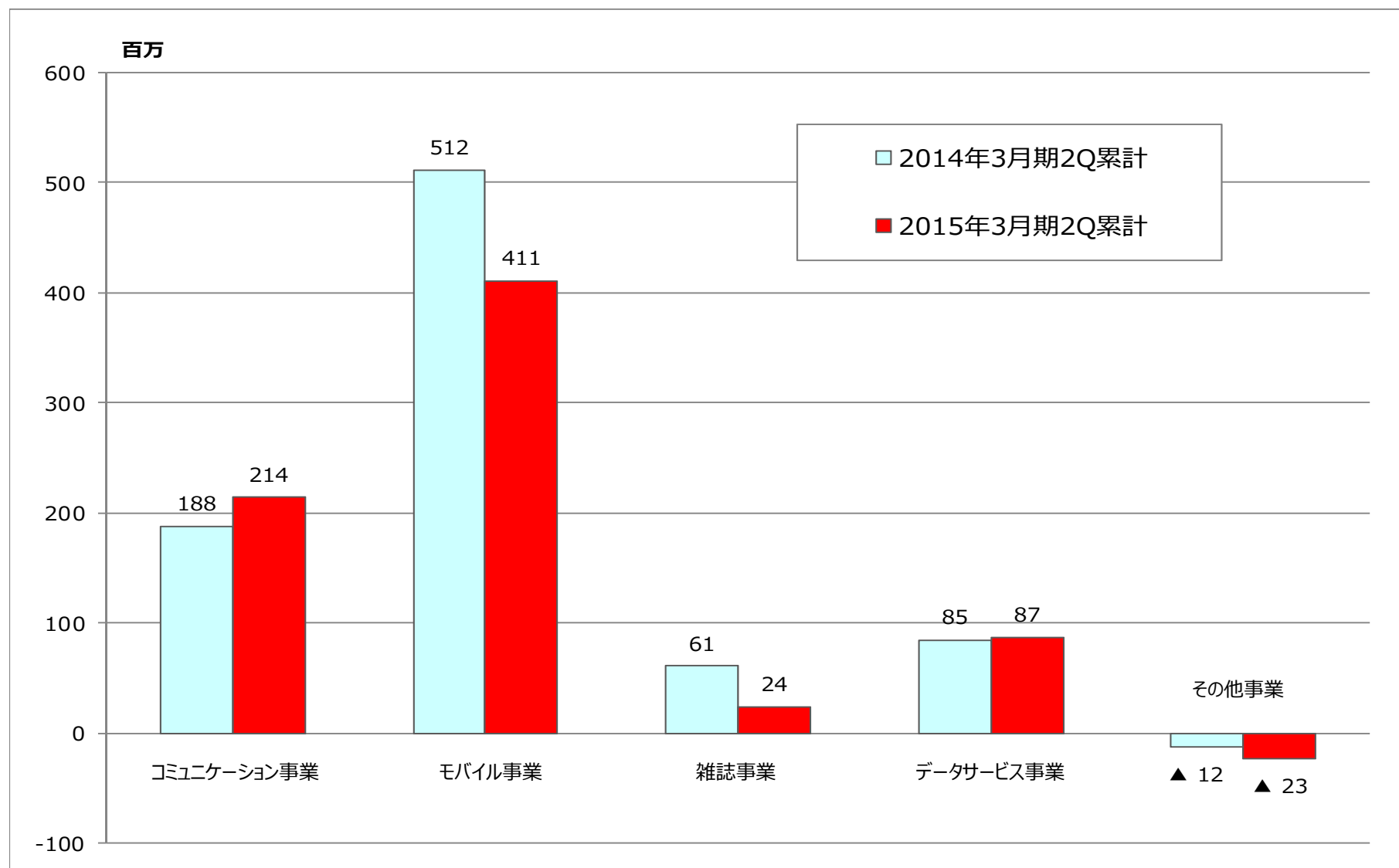


(単位：百万円、百万円未満を切捨て)	2014年3月期 第2四半期(累計)	2015年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比	
			(額)	(率)
コミュニケーション事業	563	554	▲8	▲1.5%
WEB広告販売	533	527	▲6	▲1.2%
顧客満足度ランキング連動型広告	248	266	+18	+7.3%
バナー型広告・タイアップ型広告等	284	260	▲24	▲8.5%
データ・コンテンツ販売等	30	27	▲2	▲8.2%
モバイル事業	1,095	827	▲267	▲24.5%
フィーチャーフォン向け（着うたフル・着うた・着メロ・情報系）	890	628	▲262	▲29.5%
スマートフォン向け音楽配信	204	198	▲5	▲2.6%
雑誌事業	516	436	▲80	▲15.6%
データサービス事業	268	272	+3	+1.3%
その他（ソーシャルゲーム事業・太陽光発電事業等）	126	83	▲42	▲33.9%
売上高合計	2,570	2,174	▲396	▲15.4%

※

※バナー・タイアップ広告につきましては、▲8.5%減となっておりますが、前年同期に、スポットの大型受注による売上が45百万あり、この差分を控除して見ると前年同期比+8.6%となりますので、事業の実体としては堅調に推移していると考えております。

セグメント別営業利益



連結貸借対照表



(単位：百万円)	2014年3月期末	2015年3月期 第2四半期末	増減
資産合計	4,140	4,797	+656
流動資産	2,025	2,036	+11
有形固定資産	535	1,084	+548
無形固定資産	1,026	1,128	+101
投資その他の資産	548	544	▲4
繰延資産	4	3	-
負債合計	2,089	2,812	+722
流動負債	1,371	1,884	+512
固定負債	718	927	+209
純資産合計	2,051	1,985	▲66
株主資本	2,063	1,997	▲66
その他の包括利益累計額	0	0	-
新株予約権	▲12	▲12	-

- 総資産 656百万円増加
 - ・有形固定資産
第2号メガソーラー(建設中)+564百万円
 - ・無形固定資産
第2号メガソーラー権利金 +99百万円

- 負債合計 722百万円増加
 - ・流動負債 有利子負債 +543百万
 - ・固定負債 有利子負債 +207百万

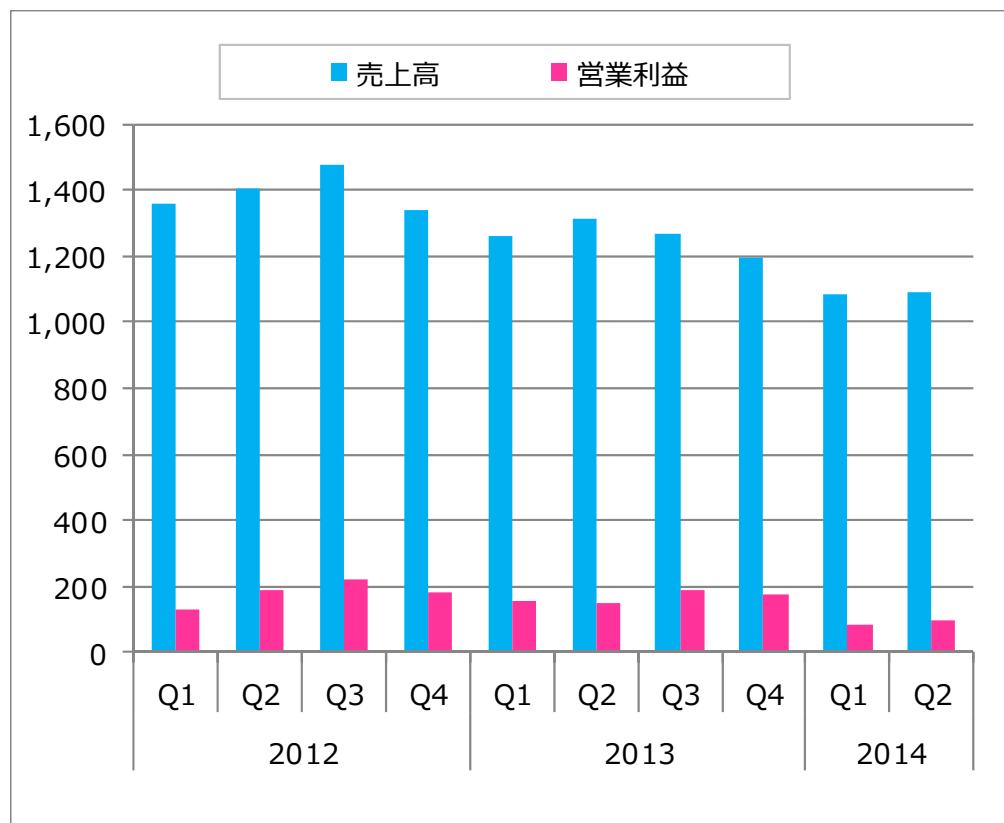
- 純資産合計 66百万円減少
 - ・配当金支払 ▲117百万
 - ・当期純利益 +51百万

- 自己資本比率は41.6%
(前期末比8.2ポイント低下)

(単位：百万円)	2014年3月期 第2四半期(累計)	2015年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	360	283	▲77
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲296	▲793	▲496
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2	634	+636
現金及び現金同等物の増減額	61	124	+62
現金及び現金同等物の期首残高	910	881	▲29
現金及び現金同等物の四半期末残高	971	1,005	+33

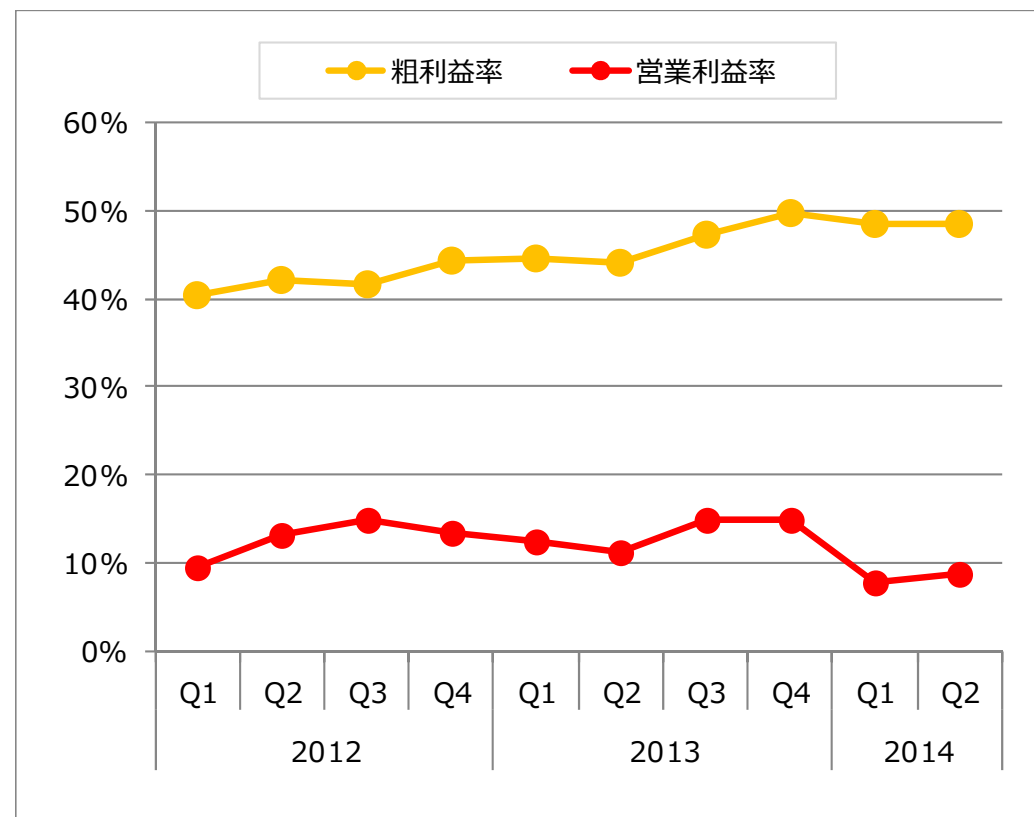
- ・太陽光発電所第2号の建設等により、投資活動による資金減少額が増加。
- ・財務活動においては、主に短期借入金により資金を調達。

◆ 四半期推移

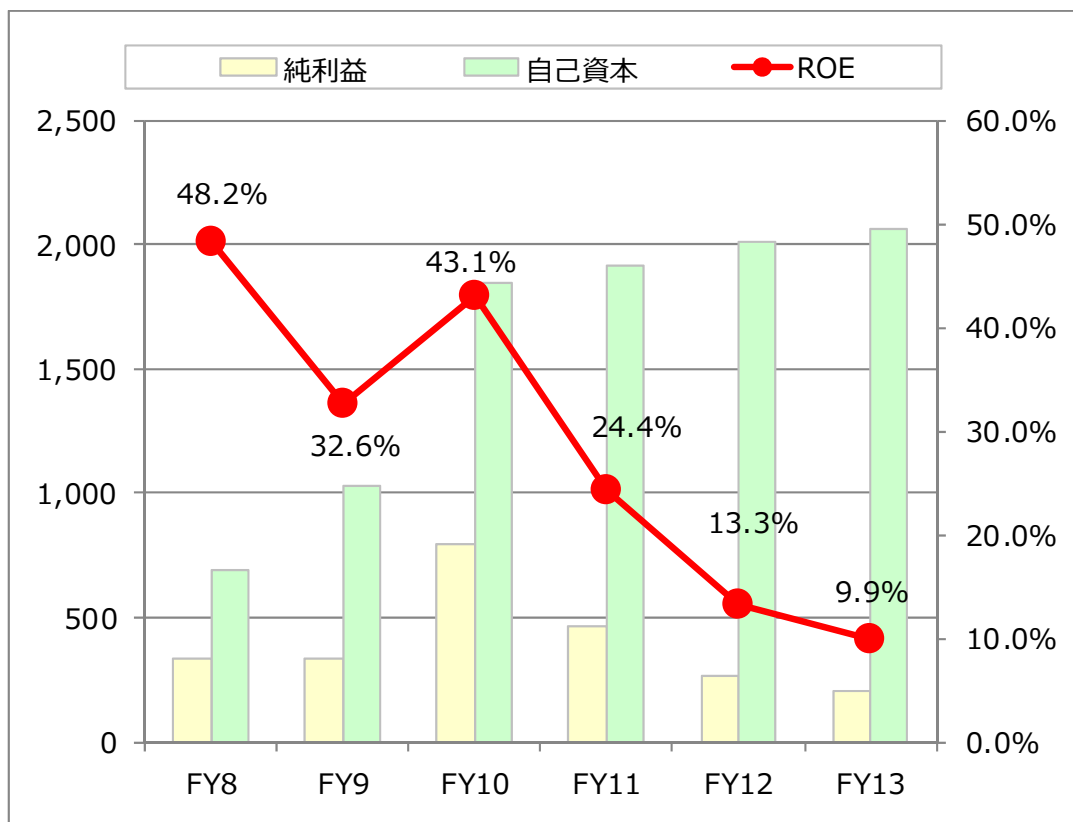


(百万円)

◆ 利益率

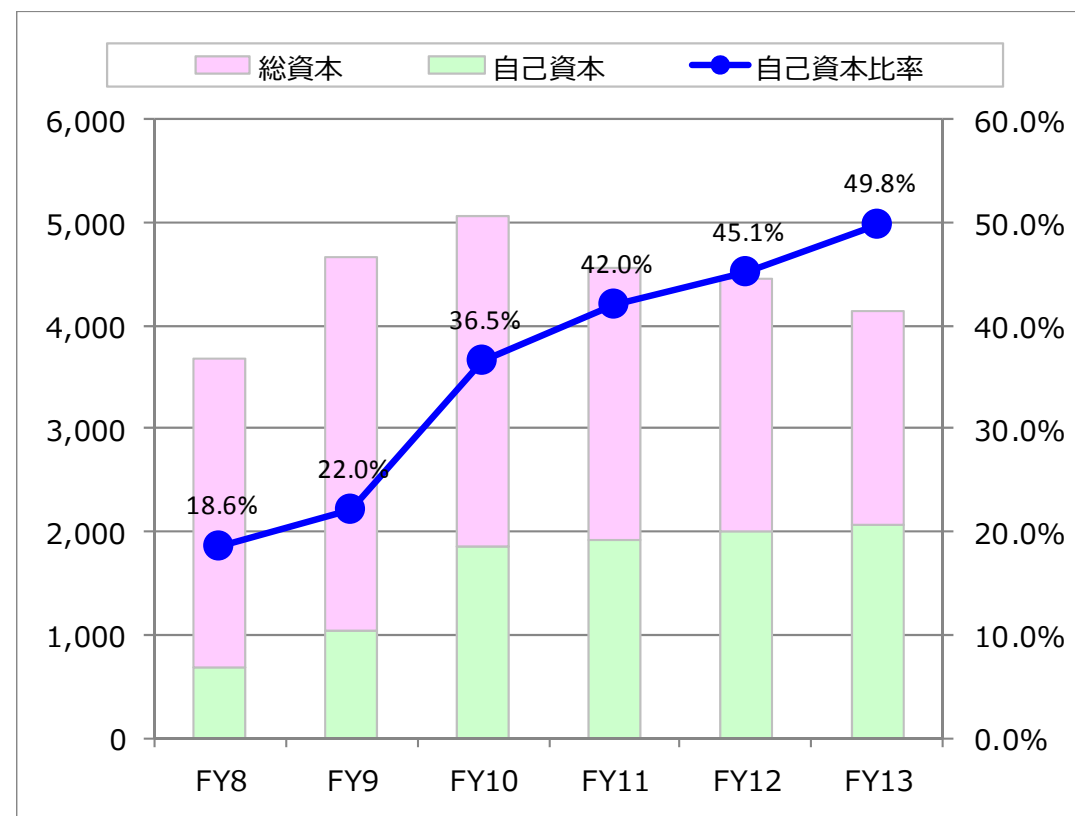


◆ ROE



(百万円)

◆ 自己資本比率



(百万円)

2015年3月期の見通し

2014年5月9日に公表した連結業績予想数値は、2014年11月7日時点において、変更はありません。

(報告セグメント別売上高の予想数値)

予想数値 (2014年5月9日公表)

(単位：百万円)	2015年3月期 連結予想数値 通期	前期比
	売上高	4,600
営業利益	410	▲39.0%
経常利益	340	▲46.2%
当期純利益	220	+7.5%

(単位：百万円、百万円未満を切捨て)	2014年3月期 [実績]	2015年3月期 [予想]	前期比	
			(額)	(率)
コミュニケーション事業	1,116	1,341	+224	+20.1%
WEB広告販売	1,056	1,278	+222	+21.0%
顧客満足度ランキング連動型広告	512	715	+203	+39.7%
バナー型広告・タイアップ型広告等	543	563	+19	+3.7%
データ・コンテンツ販売等	60	63	+2	+4.0%
モバイル事業	2,035	1,492	▲543	▲26.7%
フィーチャーフォン向け (着うたフル・着うた・着メロ・情報系)	1,621	1,120	▲500	▲30.9%
スマートフォン向け音楽配信	414	371	▲42	▲10.3%
雑誌事業	1,112	1,049	▲63	▲5.7%
データサービス事業	546	552	+6	+1.2%
その他 (ソーシャルゲーム事業・太陽光発電事業等)	220	163	▲57	▲26.1%
売上高合計	5,032	4,600	▲432	▲8.6%

事業の取組み

● コミュニケーション事業

◆ 顧客満足度(CS)ランキング連動型広告

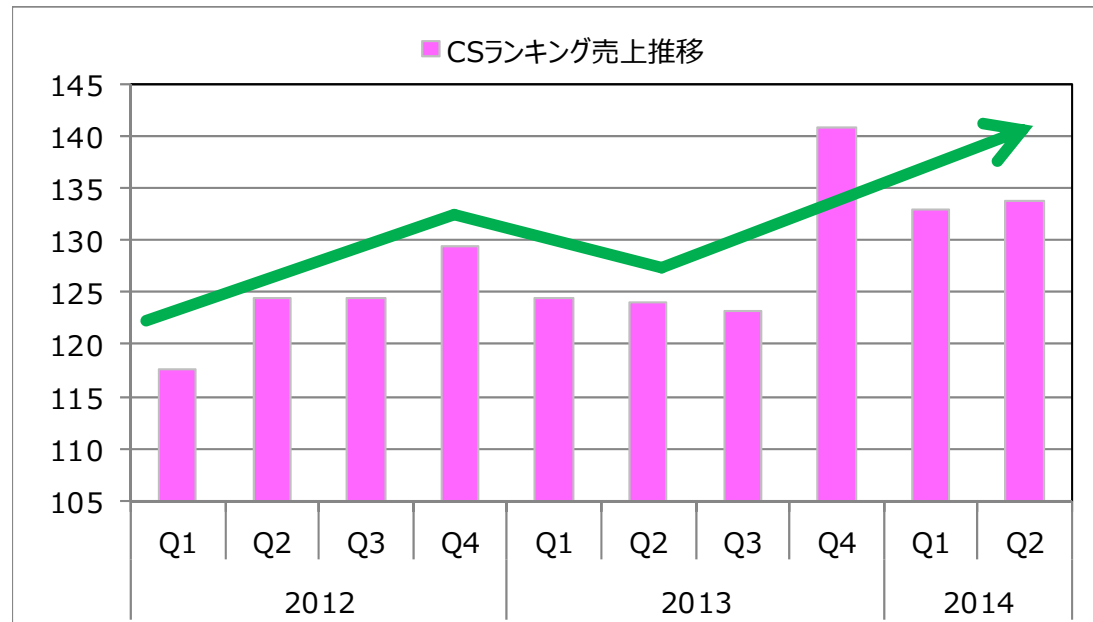
● 新規ジャンルの拡張

「レストランチェーン」「宅配ピザ」 (平成26年8月～)

「携帯キャリア」「携帯端末」「子ども英会話」「クレジットカード」
(平成26年9月～)

● 前期に一部ジャンルを終了した事で一時的に売上が減少しましたが、上記新規ジャンルを始め「自動車保険」「英会話」などが堅調に推移し、事業としては着実に成長を続けております。

● 2014年9月現在、8部門44ジャンルを展開。今後もさらにジャンルの拡大をすすめていき、認知度をアップさせ商品価値を高めると共に販路を拡げ、収益力の向上を目指して参ります。



(百万円)

◆WEBサイトバナー・タイアップ型広告

●バナー、タイアップともに堅調

セグメントの前年同期比では8.5%の減になりましたが、前年9月にスポットでのタイアップ大口受注（約4,500万）があった事が影響しています。

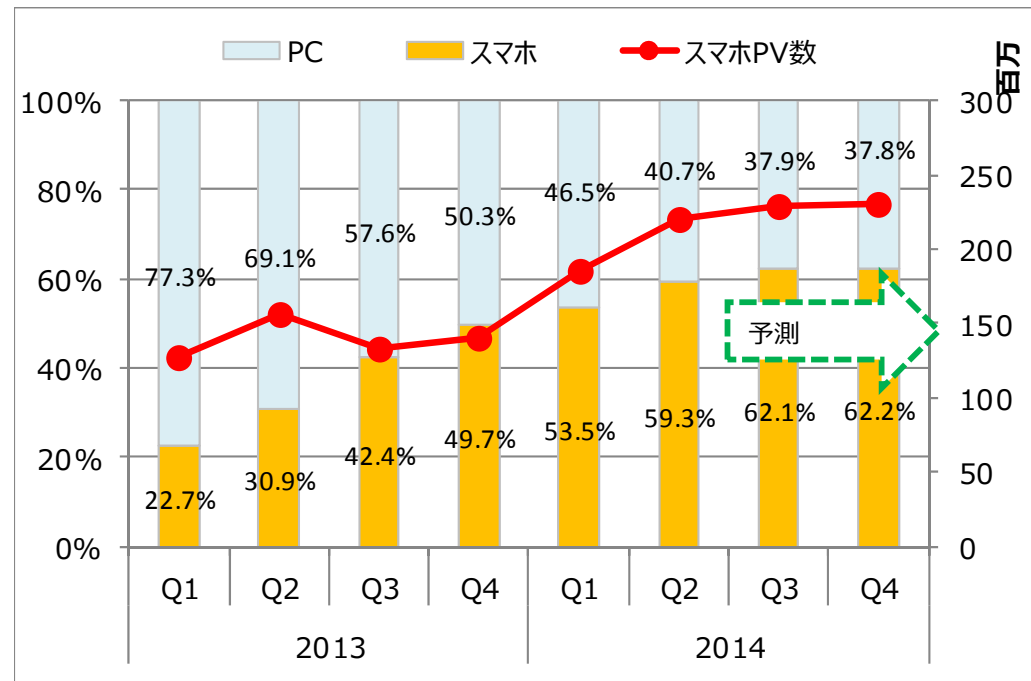
これを控除して見ると、前年同期比8.6%の増となりますので、実体としては堅調に推移していると考えております。

●スマートフォン売上が前年同期比164.8%増と好調

バナー売上の内訳ではPCとスマートフォンの比率が大きく変化しています（グラフご参照）。

●WEBサイト「ORICON STYLE」を11月5日(水)に全面リニューアル致しました。
よりユーザーの皆様楽しんで頂きやすい構成となりました。

バナー売上のPC・スマートフォン比率とスマートフォンPV数推移



●モバイル事業

●フィーチャーフォン向けでは市場の縮小に伴い、売上が減少。

●スマートフォン向けは、音楽配信サイト（オリコンミュージックストア）単体では前年同期1.9%増となりましたが、セグメントで見ると、前期に終了したその他のスマートフォンサービスの減少分が影響し2.6%減となりました。

●今後は着うた、着うたフルそれぞれのサイト統合を行いつつ、上述したWEBオリコンスタイルとの連携をさらに高める事で、効率の良い運用および利益率の確保に注力して参ります。



フィーチャーフォン・スマートフォン・PCとあらゆるデバイスでの展開（画像はPC向け配信ページ）

● 新規事業

◆ 再生可能エネルギー分野への取組み

● 研究開発などに活用可能な資金を増やすため、第2号メガソーラーの設置を5月に決定。
現在2015年3月の完成予定で建設が進んでおり、次年度よりの発電開始を見込んでおります。

● 東京工業大学との共同研究（マイクロ波を再生可能エネルギー分野に応用する研究）を発展させるため、東京工業大学に共同研究講座を開設。平成26年8月より稼働しております。

● マグネシウム燃料電池関連の研究成果(東北大学小濱泰昭名誉教授実施の研究成果6件)のうち1件(基本特許と言えるもの)を2014年6月に共同出資者(東北大学および産総研)と特許申請を行いました。

⇒2014年10月17日に特許権の取得を致しました。



開設セレモニー時に使用したモニター画像

◆ビッグデータを活用する取組み

日本株式の情報サービスとして、過去10年間に亘る全上場銘柄を対象に、200を超える説明変数（分析要素）を用いて分析するモデルとなります。投資家の皆様に、より良い投資判断にご利用いただけるツールとしてお届けできます様、さらに精度の高いモデルの構築を図るため今後も引き続き研究・開発を進めて参ります。

モデル開発に使用する分析要素の例（抜粋）

自己資本＋推計経常利益（推	出来高/時価総額	日経先物	コールレート	米 生産者物価指数
売上高	出来高/出来高5日平均線	景気動向指数	国際収支	米 消費者物価指数
売上高成長率	自社株買い	国内企業物価指数	外貨準備高	米 GDP
売上総利益	信用売り残	消費者物価指数	貿易通関原油価格	米 耐久財受注
売上総利益成長率	信用買い残	輸入物価指数	完全失業率	米 ISM製造業景況指数
営業利益	PER	企業向けサービス価格指数	完全失業者数	米 鉱工業生産
営業利益成長率推移3期分	PER/同業種平均PER	鉱工業生産指数	有効求人倍率	香港ハンセン
事業セグメント別事業利益	PER/所属マーケット平均PER	機械受注	厚労省雇用指数	上海 上海総合
事業利益毎成長率	PBR	稼働率指数	企業倒産件数	中国 貿易収支
経常利益	同業種平均PER	乗用車生産台数	銀行取引停止者件数	中国 生産者物価指数
経常利益成長率	東証総出来高	建設工事受注	短期プライムレート	中国 消費者物価指数
税引き前当期利益	同業種総出来高	産業用大口電気使用量	国土省地価、都道府県地価	中国 GDP
税引き前利益成長率	出来高/同業種総出来高	消費支出	GDP名目 対前年比率	中国 HSBC/マーケット製造業
純利益	5日移動平均値	百貨店販売額	GDP実質 対前年比率	中国 製造業PMI
純利益成長率	25日移動平均値	スーパー販売額	日銀短観	中国 非製造業PMI
総資産	75日移動平均値	商業販売額	為替 円相場/ドル	ドイツ DAX
総資産利益率	5日移動平均値/25日移動平	百貨店売上高	為替 円相場/ユーロ	フランスCAC40
自己資本	25日移動平均値/75日移動平	チェーンストア販売額	為替 円相場/豪ドル	イタリアFTSE MIB
自己資本利益率	MACD	自動車販売台数	ニューヨーク取引所 ダウ平均	ユーロ圏 失業率
営業CF	RSI	旅行取扱高	NASDAQ	ユーロ圏 貿易収支

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 着うた、着うたフルは、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

※ その他記載されている製品名、サービス名などは、該当する各社の商標または登録商標です。

オリコン株式会社

IR用ホームページ <http://www.oricon.jp/>